

札幌社保協 FAXニュース

2010年8月 2日(月)
社保協事務局 発行
Tel823-0867 Fax821-3701
E-mail:s-syaho@kin-ikyo.or.jp
http://www.sapporo-syahokyo.jp/

国保・介護・後期
高齢者110番は
8月26日です

子宮頸がん予防ワクチンに公費助成を！ 新婦人が市議会へ陳情

新婦人札幌協議会が提出していた、「子宮頸がん予防ワクチン公費助成を求める」陳情が7月27日厚生委員会で審議され、中央支部・奥谷さんが趣旨説明を行い、支部・道本部から15名が傍聴しました。

奥谷さんは30年間子宮ガン検診の検査技師として働いている立場から「20・30代の子宮頸がんが増えている。予防できるワクチンはとても有効ではあるが、半年間で3回接種が必要で5万円以上かかるのではとても受けられない。公費助成をして、みんなが受けられることが必要」と述べました。

各会派から、ワクチンと検診の重要性が語られ、ワクチンに対する市の認識と予算、検診率や性教育のとりくみが質問されました。

札幌市は、11～14才の1割を半額助成した場合、7,200万円、全額では1億5000万円で試算。検診率が低いことに対しては、これからさらにお知らせを強め、特に若い世代が使用する商業施設や地下鉄に掲示するなど計画し、年代ごとの受診率も調査していきたいと報告。しかし、札幌市の意向としては、ワクチンの有効性を充分認識しているが、国の動きをみて検討するとの答えでした。委員会では、陳情が継続審議になりました。



西区SOSネット 多くの人々が協力し 相談会を開催



生活・福祉コーナーで相談を行う、守る会のみなさん

西区社保協・生活と健康を守る会・勤医協西区病院などが中心となって、この間西区SOSネットを立ち上げ、準備してきた「相談会」が7/29に開かれました。

あいにくの雨のため屋外から区民センター内に会場を変えましたが、弁護士、司法書士を始め、守る会、民商、西区病院、勤医協在宅、新婦人など、多くの団体・個人が50人以上相談員やスタッフとして参加しました。炊き出しによる食事の提供も行われました。

生活・福祉、医療、介護等のブースが設けられ、16人の方が訪れて27件の相談がありました。Aさん(77歳女性)は「一人暮らしで介護の相談に来ました。相談する所があって良かった、早速役所へ行ってきます」と話していました。また、この日に配布されていたピラを持って、そのまま相談に来た方もいました。

東区社保協が総会

東区社保協の12回定期総会が7/30、勤医協中央病院の別館で開催され、各団体から30人が参加しました。

吉岡道社保協事務局長が「参院選挙後の社会保障の動向について」の講演を行いました。

討論では年金者組合が後期高齢者医療制度廃止の運動、民商が消費税増税反対、勤医協中央病院が重い医療費負担の実態等を報告しました。2010年度は学習・相談活動を中心とする総会議案が、満場一致で確認されました。

